

2023年5月期 第1四半期 決算補足説明資料

2022年10月



- 前年同期に比べ14.9%増の増収となったが、原価率の悪化により利益は減少
- 仕入価格の上昇や円安の影響は想定より少なく、計画に対しては売上・利益とも上回って進捗

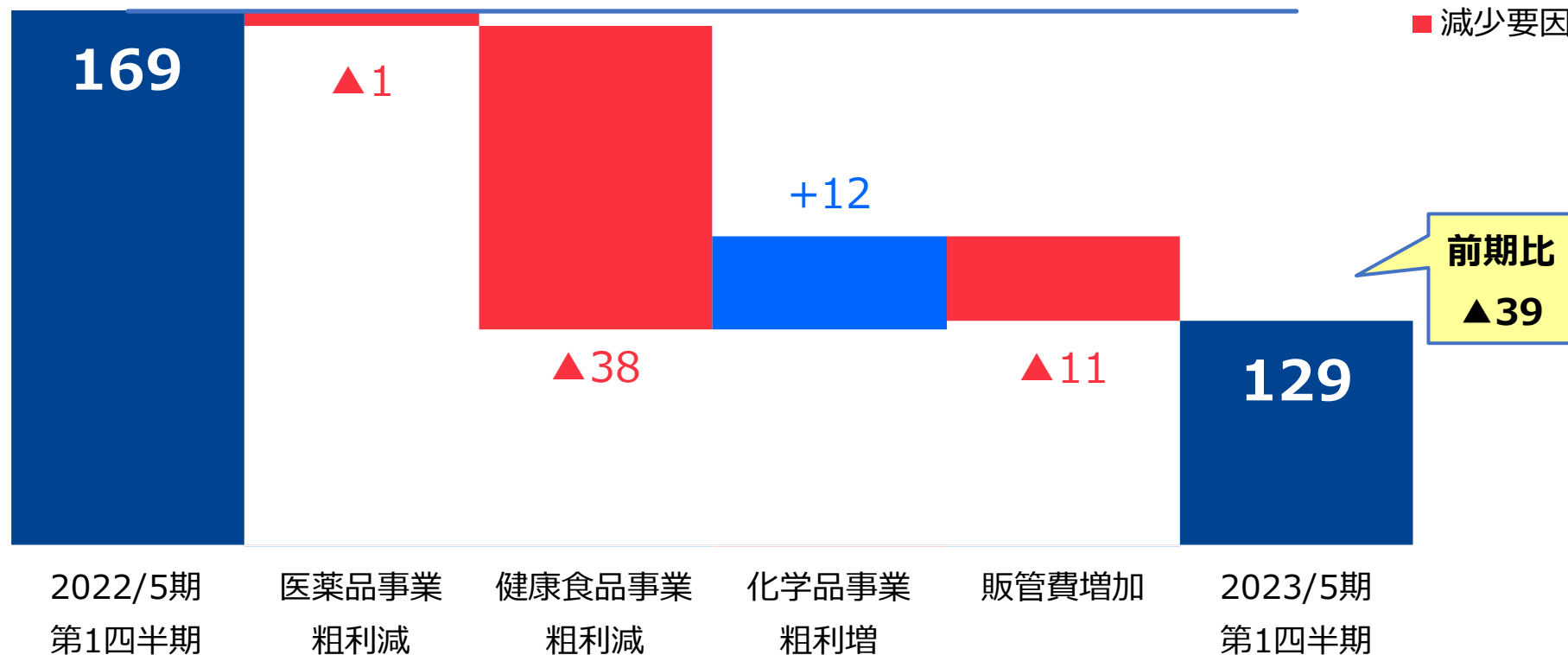
(百万円)

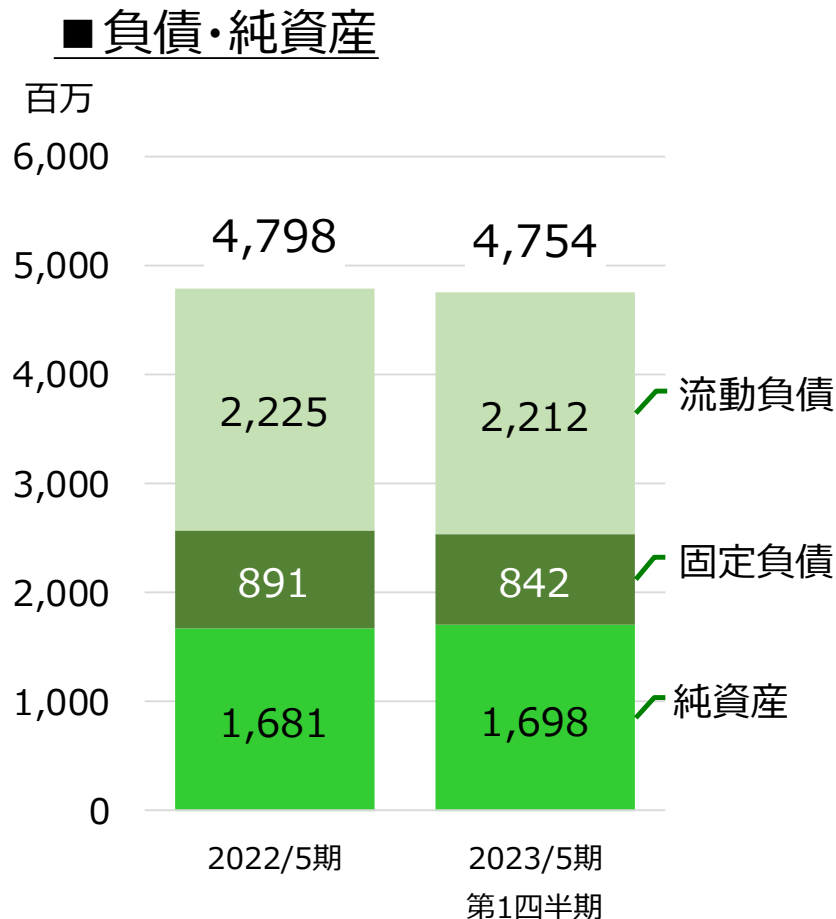
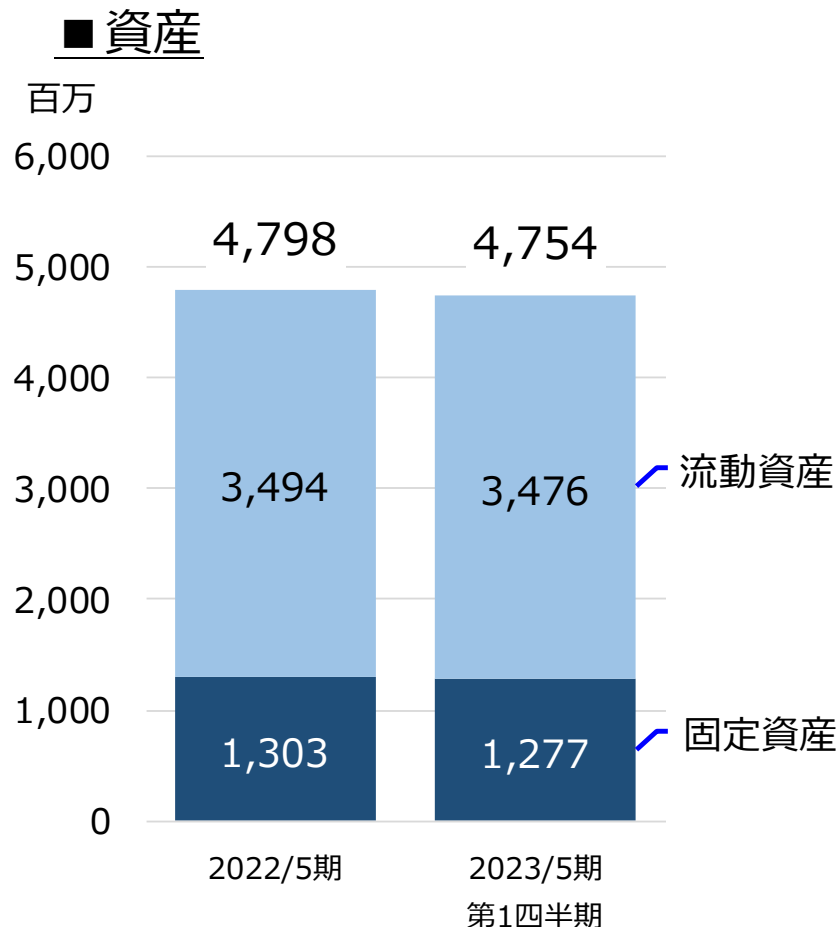
	2022/5期 第1四半期		2023/5期 第1四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	1,328	100.0%	1,526	100.0%	198	14.9%
売上原価	842	63.4%	1,068	70.0%	226	26.8%
売上総利益	485	36.6%	457	30.0%	△27	△5.7%
販売費及び一般管理費	316	23.8%	327	21.5%	11	3.7%
営業利益	169	12.7%	129	8.5%	△39	△23.3%
経常利益	170	12.8%	118	7.8%	△51	△30.5%
当期純利益	122	9.2%	86	5.7%	△35	△29.4%

- 健康食品事業では前年同期に比べ売上が少なかったため、売上総利益が減少
- 販管費の増加の主なものは、展示会等の販売戦略費の増加、基幹システムの更新による保守料の増加など

(百万円)

■ 増加要因
■ 減少要因

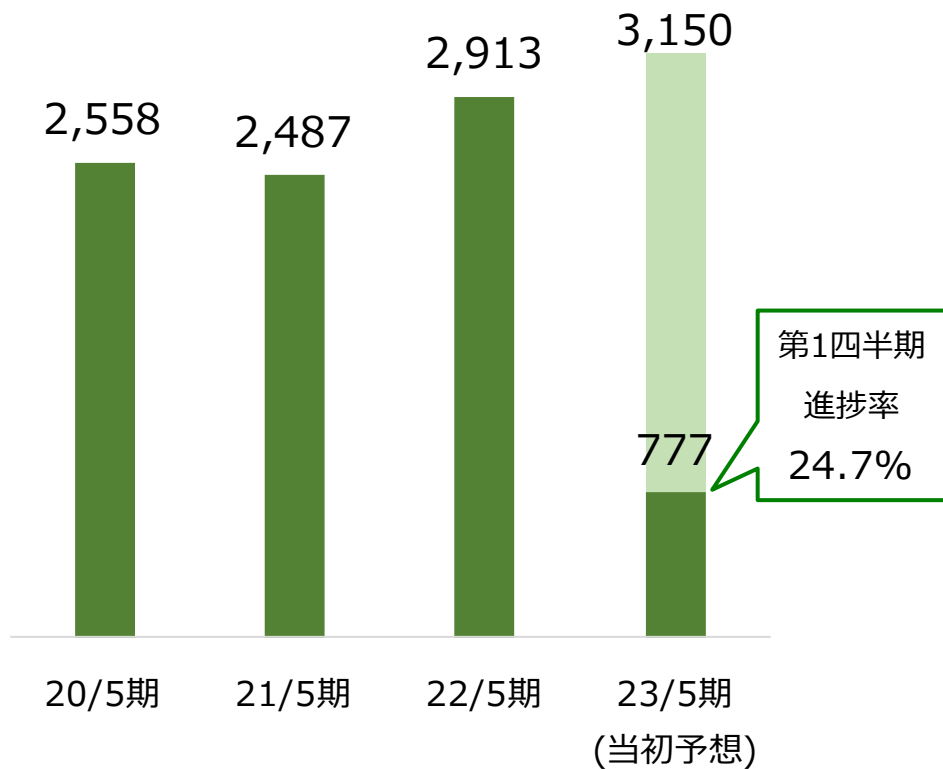




自己資本比率 : 35.7% (前期末比 +0.7pt)

売上高 777百万円 (前年同期比) (139.4%)	営業利益 105百万円 (前年同期比) (95.1%)
--	--

■ 売上高 (単位：百万円)



- 輸入原薬の取引量増加
- 仕入先からの値上げについて、販売価格への転嫁を進めていることも売上増に影響
- 輸入原薬の売上比率が増したことにより、利益率は低下

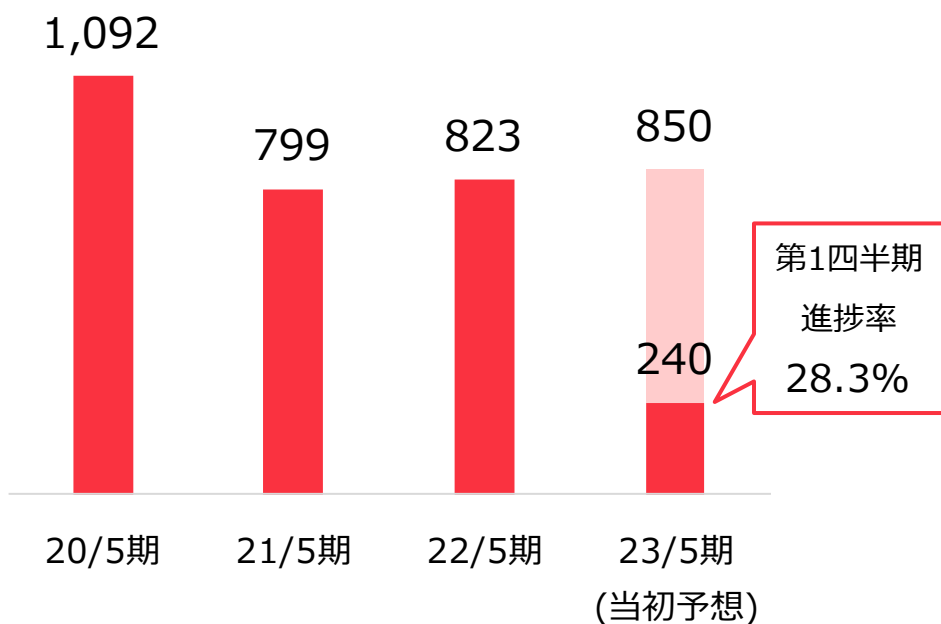
医薬品事業の概要

医薬品原薬（医薬品の有効成分）の製造・販売を行う。海外原薬メーカーから原薬を輸入販売する商社機能と自社工場での製造・加工を行うメーカー機能とを併せ持つ。採用実績のある輸入原薬の横展開によるシェア拡大を図るとともに、自社加工案件の獲得を進める。



売上高 240百万円	(前年同期比) (79.9%)	営業損失 0百万円	(前年同期) (39百万円)
-----------------------------	--------------------	----------------------------	-------------------

■ 売上高 (単位：百万円)



- OEM製品の大口顧客での需要がひと段落し、売上が減少
- 自社製品 (TV通販) の売上は好調

健康食品事業の概要

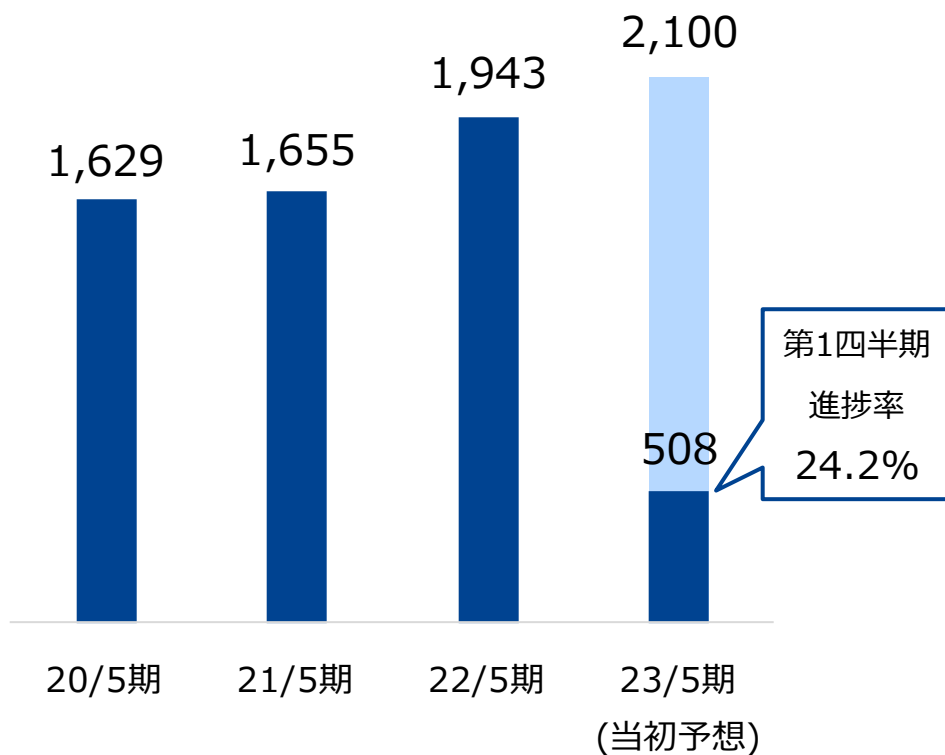
スティックゼリータイプの健康食品の企画・製造を行っており、ODM・OEM製造を主としている。健康・美容成分などの味や匂いを包み隠し、食べやすくするマスキング技術を強みとする。スティックタイプに加え、容量の大きいTPパウチ・ショットタイプも拡販を進める。



売上高 (前年同期比)
508百万円 (108.3%)

営業利益 (前年同期比)
25百万円 (132.6%)

■ 売上高 (単位：百万円)



- 各商材での売上が好調に推移
- バイオディーゼル燃料精製装置は予定通り9月に上市し、営業活動を開始している

化学品事業の概要

液体処理関連製品や接着剤等の機能性製品の販売・加工を行う。液体処理に使用されるイオン交換樹脂を主力としており、特殊な用途の液体処理案件にも対応する。海外のイオン交換樹脂メーカーとのイオン交換樹脂の共同開発にも力を入れている。



- 第2四半期業績予想を上方修正
- 医薬品事業における輸入原薬の販売が引き続き堅調に推移する見込み
- 通期の業績予想については、当初予想を据え置き 下期動向を精査中

業績予想の修正	2023年5月期 第2四半期累計 有		2023年5月期 通期 無
売上高	3,000百万円	+3.4%	6,100百万円
営業利益	190百万円	+111.1%	380百万円
経常利益	175百万円	+118.8%	360百万円
当期純利益	145百万円	+190.0%	250百万円

参考資料



会社名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代表者	代表取締役社長 青木 淳一
設立	1947年7月 (創立: 1917年1月)
資本金	143,172千円
従業員	197名 (2022年5月末現在)

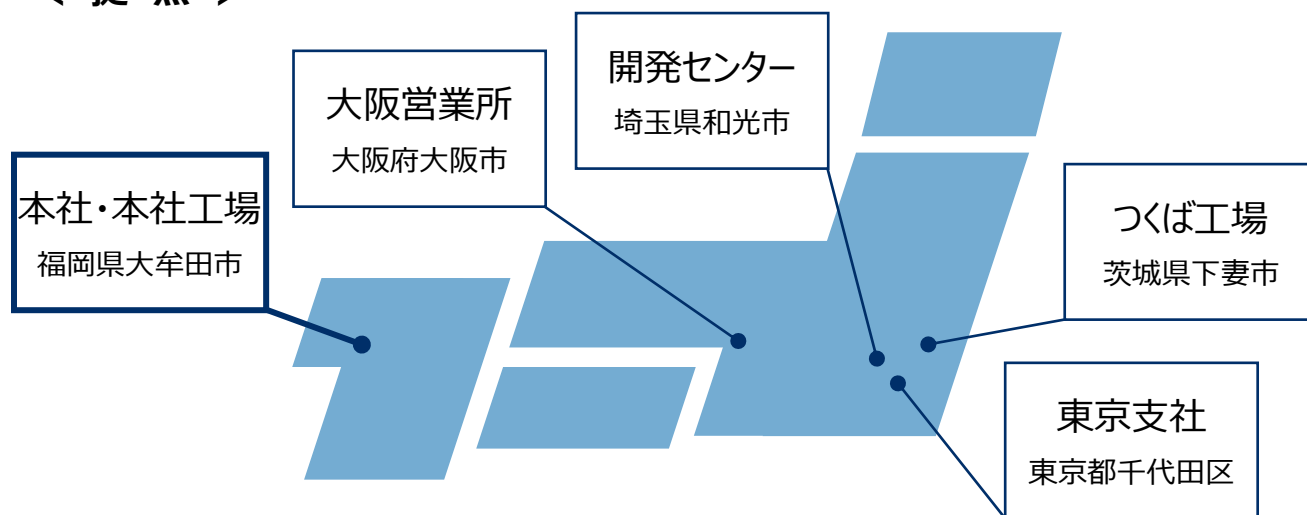


創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

< 拠点 >



明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の
製造・販売



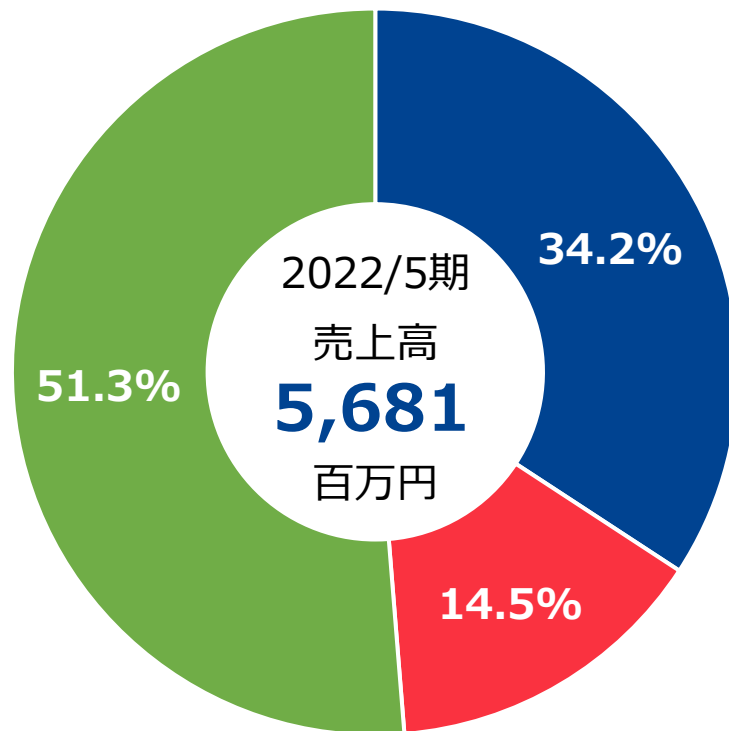
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く
液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの
健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、輸入・製造・加工・分析とトータルサービスを提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

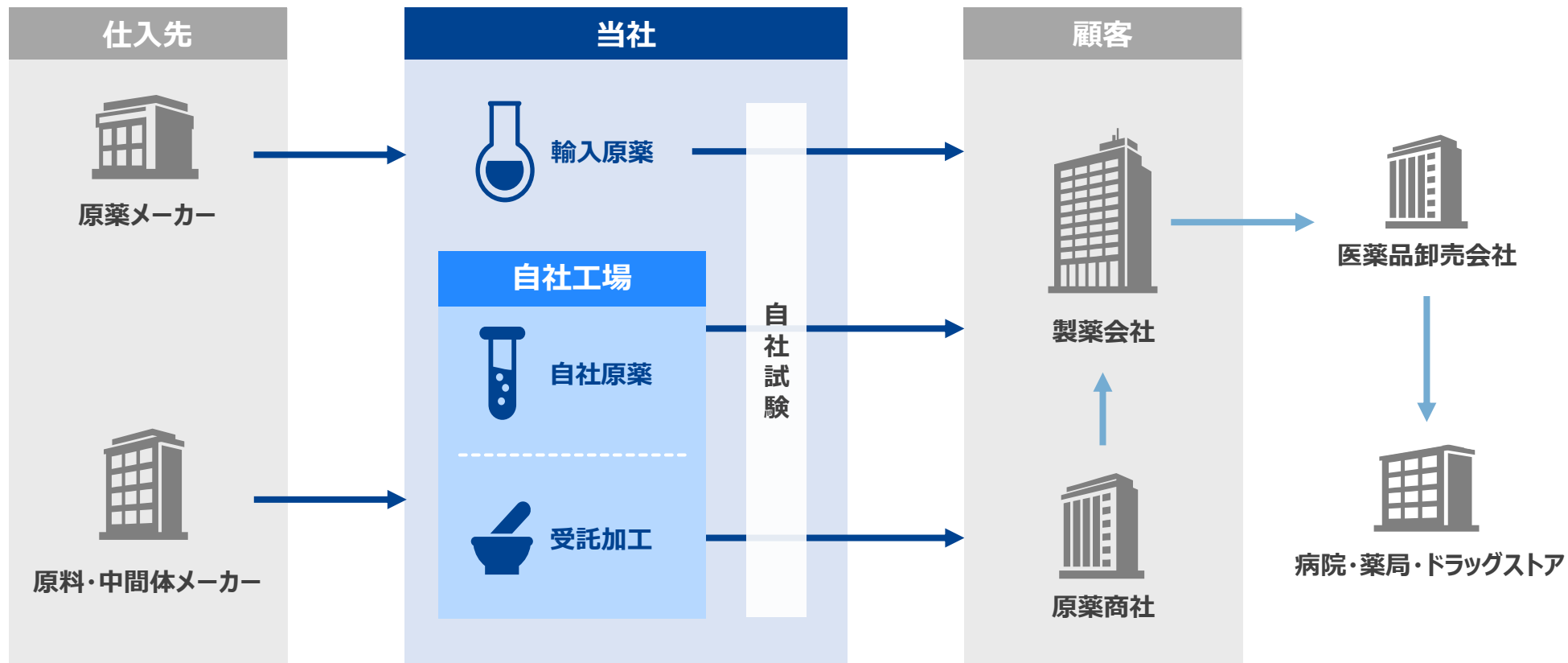
健康・美容成分には食べづらい味や匂いのもありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、食べる健康食品にとって重要な「おいしさ」を追求しています。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製など、案件によってカスタマイズが必要な特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと培ってきたノウハウで、最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。現在当社が取り扱っている原薬は、ジェネリック医薬品*・医療用医薬品*向けが主となっております。



* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

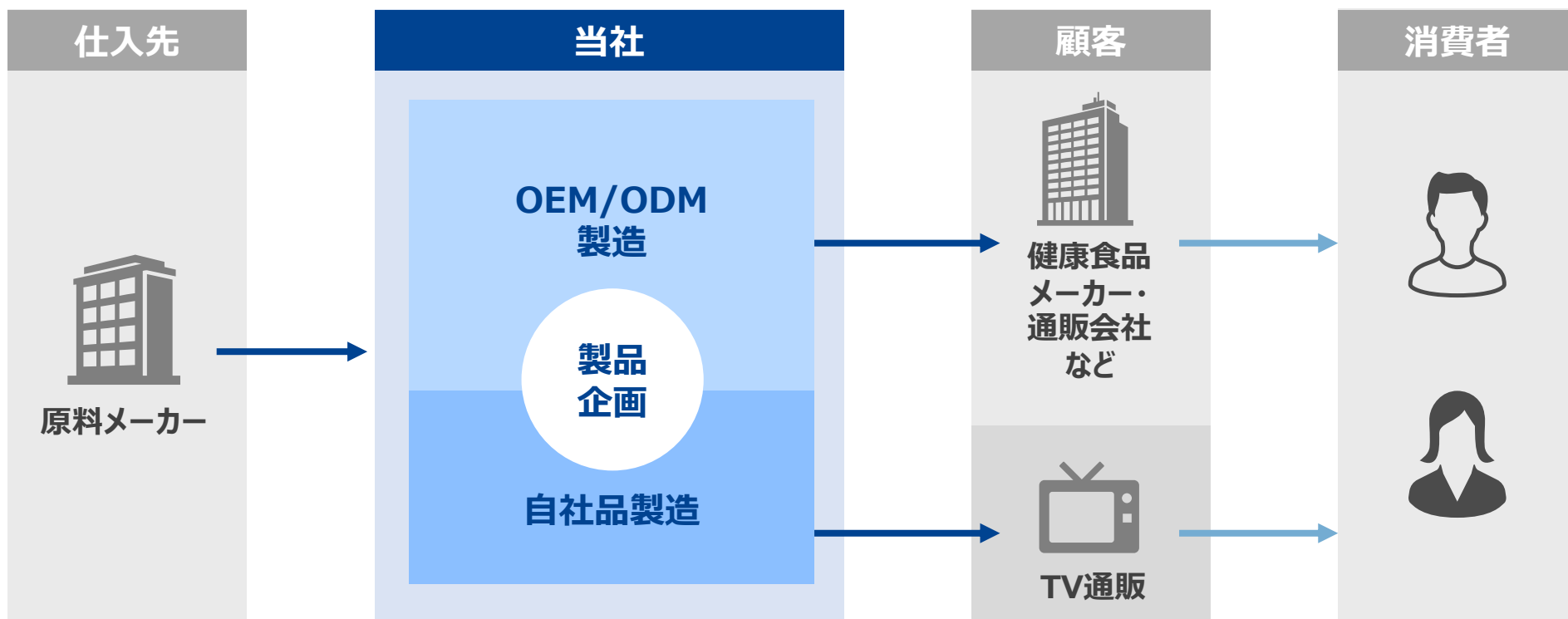
・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



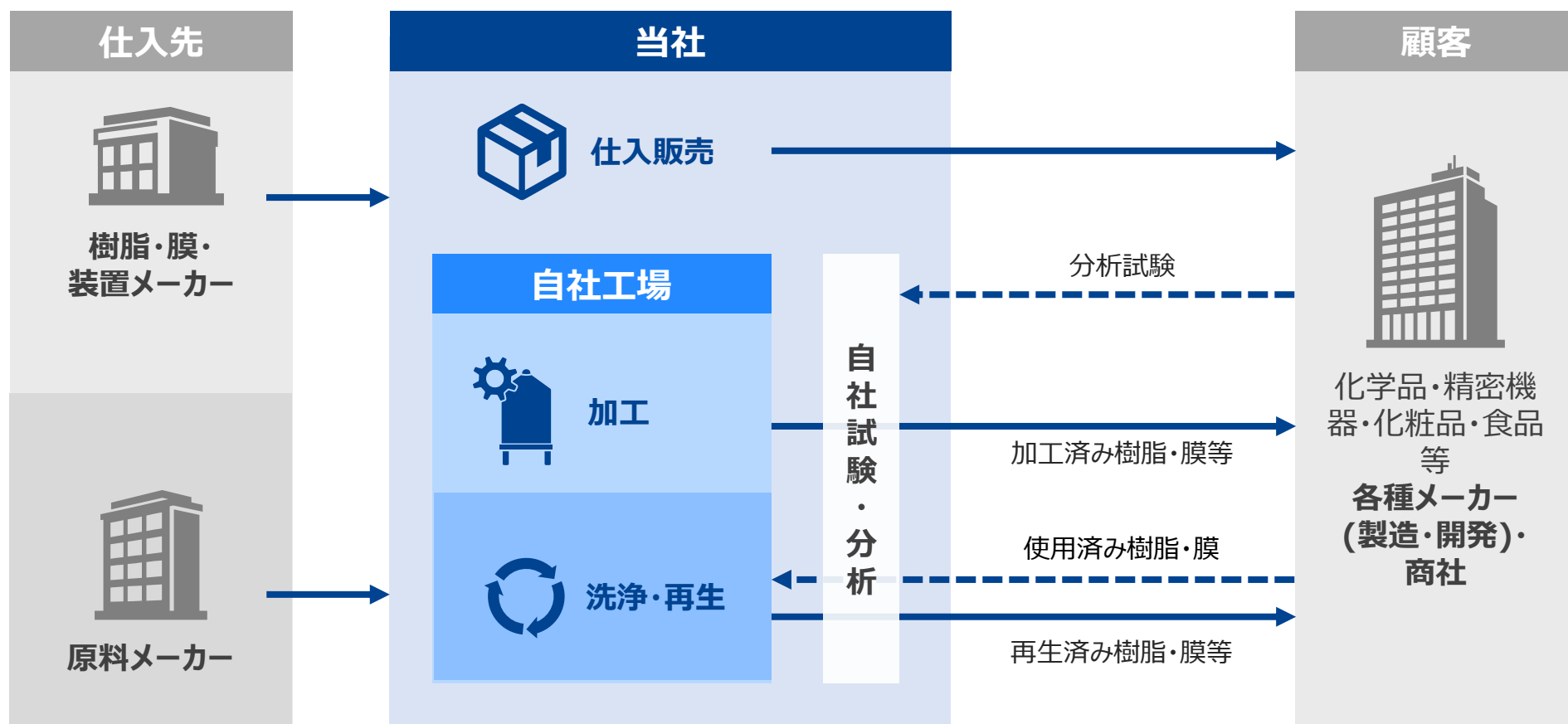
* ODM (Original Design Manufacturing)

…発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。



医薬品事業

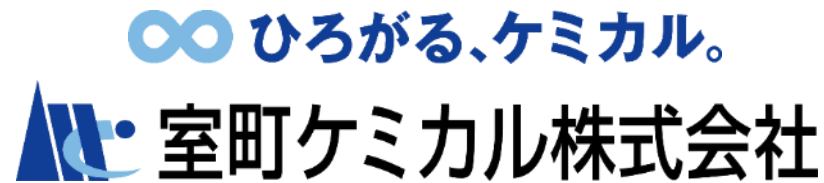
- 輸入原薬の横展開によるシェア拡大
- 特異技術による自社新製品の立上げ
- 治験薬の受託合成による新薬開発サポート

健康食品事業

- 高齢者向け製品への応用加速
- 機能性表示に対応した製品の企画・提案

化学品事業

- 海外イオン交換樹脂メーカーとの共同開発品の拡販
- 競合の少ない特殊な液体処理でのニーズ取込み



<https://www.muro-chem.co.jp/>

本資料に関するお問い合わせ先
室町ケミカル株式会社 経営企画室
TEL : 0944-41-2131
FAX : 0944-41-2133

＜本資料取扱上の注意点＞

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。